

## 膵臓癌に対する放射線治療後の病理組織学的効果の予測因子の探索

### 1. 研究の対象

2017 年 4 月～2025 年 3 月に当院で膵臓癌に対する放射線治療を受けられた方とこれから受けられる方

### 2. 研究目的・方法

膵臓癌は最も予後不良な難治性癌のひとつで、手術前に放射線治療を施行することで、治療成績を向上できると期待されています。近年では腫瘍に対して高線量を投与しつつ、正常組織への線量を低減できる技法が開発されました。膵腫瘍に対して高線量を投与することで良好な病理組織学的効果が得られますが、腫瘍に隣接する腸管は放射線感受性が高いため有害事象を引き起こす可能性があります。

近年、Dual-energy CT (DECT)が開発され、臓器に取り込まれた造影剤量を定量的に測定できるようになりました。造影剤の取り込み量が低い腫瘍ほど、抗がん剤の治療効果が不良であったと報告されています。本研究では、放射線治療後の病理組織学的効果の予測因子を DECT から得られる情報の中から探索します。

### 3. 研究に用いる情報の種類

情報：CT 画像、MR 画像など、放射線治療実施に必要であった情報、血液検査データ、摘出された腫瘍の病理標本画像

試料：なし

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

大阪国際がんセンター 放射線腫瘍科 大平新吾 (研究責任者)

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上